

令和7年度へき地医療貢献者表彰の決定について

へき地医療貢献者表彰は、15年以上にわたって山村・離島等の医療確保に尽力された医師に対して、全国自治体病院開設者協議会会長及び公益社団法人全国自治体病院協議会会長が、その功績を称え、毎年1回実施しているものです。（昭和56年度に設けられ、今年度は45回目）
 このたび、次のとおり令和7年度の受賞者が決定しましたのでお知らせします。

1. 受賞者

	道府県名	氏 名	現 職	年 数
1	北 海 道	小 松 幹 志	新ひだか町立静内病院 院長	18年9ヶ月
2	岩 手 県	佐 藤 一	岩手県立宮古病院 院長	16年2ヶ月
3	新 潟 県	石 塚 修	佐渡市立両津病院 院長	21年11ヶ月
4	新 潟 県	仲 丸 司	魚沼市立小出病院 副院長	20年2ヶ月
5	石 川 県	高 野 信 彦	山中温泉ぬくもり診療所 管理者	20年2ヶ月
6	長 野 県	河 西 秀	長野県立木曽病院 健康管理部長	15年2ヶ月
7	愛 知 県	山 田 智 之	岡崎市額田宮崎診療所 所長	18年2ヶ月
8	京 都 府	浦 野 俊 一	京丹後市立久美浜病院 副院長	25年2ヶ月
9	兵 庫 県	佐 竹 信 祐	公立宍粟総合病院 院長	15年3ヶ月
10	兵 庫 県	小 山 司	公立八鹿病院 顧問 兼 放射線科部長	21年2ヶ月
11	奈 良 県	明 石 陽 介	南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター へき地医療支援センター長	20年2ヶ月
12	鳥 取 県	小 谷 泰 広	岩美町国民健康保険岩美病院 副院長	15年2ヶ月
13	島 根 県	加 藤 一 朗	隠岐広域連合立隠岐病院 副院長	21年4ヶ月
14	広 島 県	結 城 常 譜	安芸太田病院 院長	23年2ヶ月
15	広 島 県	来 嶋 也 寸 無	公立世羅中央病院 院長	16年2ヶ月
16	広 島 県	片 岡 雅 明	公立世羅中央病院 副院長	23年2ヶ月
17	広 島 県	原 田 和 歌 子	広島県北西部地域医療連携センター センター長	15年2ヶ月
18	徳 島 県	神 澤 賢	海陽町国民健康保険海南病院 院長	31年9ヶ月
19	徳 島 県	沖 津 修	つるぎ町立半田病院 顧問	37年2ヶ月
20	香 川 県	西 角 彰 良	香川県立白鳥病院 院長	22年2ヶ月
21	愛 媛 県	金 子 政 彦	市立宇和島病院 副院長	20年2ヶ月
22	愛 媛 県	大 塚 伸 之	西予市立野村診療所 所長	25年0ヶ月
23	大 分 県	古 賀 正 義	国東市民病院 在宅ケア部長	20年10ヶ月
24	大 分 県	半 田 陽 祐	杵築市立山香病院 小児科部長	16年2ヶ月
25	宮 崎 県	吉 持 厳 信	椎葉村国民健康保険病院 院長	22年9ヶ月
26	宮 崎 県	松 田 俊 太 郎	県立延岡病院 総合診療科 主任部長	15年4ヶ月

2. 表彰の方法について

表彰は、両協議会会長からの表彰状に記念品を添えて行うこととし、各都道府県自治体病院開設者協議会を通じ伝達します。

受賞者の概要

(資料)

No	都道府県	氏名・年齢・現職	功績等
1	北海道	こまつ かんし 小松 幹志 63歳 新ひだか町立静内病院 院長	平成18年より新ひだか町立静内病院の院長として就任し、心臓血管外科医としての専門性を活かしながら、日高管内ではそれまで対応が困難であった循環器疾患の治療体制の整備に尽力してきた。院内の診療体制の見直しや医療機器の導入、さらには地域の医療機関との連携を先頭に立って推進し、平成19年度には、日高管内で唯一、循環器疾患に関する手術および入院治療が可能な医療機関としての体制を構築した。その後は、経皮的冠動脈形成術やペースメーカー移植術など、それまで都市部の医療機関に依存せざるを得なかった循環器領域の手術・治療を継続的に実施し、症例を積み重ねてきた。これにより、新ひだか町のみならず日高管内全域の循環器疾患患者にとつての「かかりつけ医療機関」としての信頼を確立している。また、平成21年度からは一般社団法人日高医師会の会長を務め、医療資源の限られた日高圏域において、医療従事者の確保や病床再編といった地域医療構想の議論を牽引している。さらに、企業や行政機関の産業医、学校医も兼任し、地域住民の健康維持・増進にも大きく寄与している。
2	岩手県	さと う はじめ 佐藤 藤一 59歳 岩手県立宮古病院 院長	平成2年6月に岩手県立中央病院へ勤務後、県北・県南・沿岸部など医師不足の地域病院で診療に従事し、地域医療に尽力してきた。平成31年からは岩手県立大槌病院の院長として、小規模病院の管理運営や新型コロナ対応にあたり、令和4年からは岩手県立千厩病院の院長として、限られた医療資源の中で救急・手術・透析を維持し、地域医療を支えてきた。自ら月2回の当直を行うほか、月2回の住田地域診療センター外来応援や月1回の訪問診療を継続。また、岩手医科大学の学外実習や地域医療研修を積極的に受け入れ、将来のへき地医療を担う人材育成にも尽力している。令和7年からは岩手県立宮古病院の院長として、基幹病院の立場から24時間365日の二次救急体制を守り、臨床研修医の受け入れにも力を注いでいる。
3	新潟県	いしづ か おさむ 石塚 修 63歳 佐渡市立両津病院 院長	平成15年7月より、佐渡島の「へき地医療拠点病院」である佐渡市立両津病院に勤務し、無医地区である鷲崎地区を中心に、3週間に1回の巡回診療を行い、地域住民に医療を提供するとともに健康管理の指導にも尽力してきた。また、通院が困難な要介護者・要支援者の居宅を月2回訪問し、居宅療養管理指導を実施。これにより、要介護者の療養生活の質の向上や、要支援者の心身機能の維持・回復に大きく貢献している。平成20年4月に院長に就任して以降も、へき地医療の人材育成や病院経営管理の責務を果たしつつ、自ら巡回診療や訪問診療を継続し、地域医療と住民の健康を支えてきた。さらに、在宅療養患者やその家族に寄り添い、安心して療養できる体制を築いている。また、研修医や医学生の実習を積極的に受け入れ、医療技術の習得にとどまらず、地域の医療ニーズに応える「出向く医療」の重要性を伝えるなど、将来のへき地医療を担う若手医師の育成にも力を注いでいる。人口減少と超高齢化が進む地域において、住民のニーズに即した医療提供や施策の実施を通じ、へき地医療の推進に多大な貢献をしている。
4	新潟県	な か ま る つかさ 仲丸 司 62歳 魚沼市立小出病院 副院長	平成12年に腎臓内科医として新潟県立小出病院に赴任して以来、一貫して出身地である旧広神村を含む北魚沼地域(平成16年の町村合併により現在の魚沼市)における医療に尽力してきた。平成27年の大規模な地域医療再編成では、県立病院383床から「地域包括ケアシステムを支える地域密着型病院」として再編された市民病院134床において、透析などの専門領域にとどまらず、肺炎・心不全・悪性疾患・認知症・脳血管疾患など地域のコモディティーズに幅広く対応し、総合診療医として高い診療能力を発揮、診療部の中心的存在として活躍している。その温和人柄と誠実な姿勢により病院管理部やスタッフからの信頼も厚く、院内外における多職種連携の要として重要な役割を担ってきた。さらに、魚沼市医療公社内の国民健康保険守門診療所では施設長を務め、外来診療や訪問診療、施設配置医としても精力的に活動し、へき地医療の最前線を支えている。「故郷のために」という強い思いを胸に、総合診療・地域医療を体現している。
5	石川県	た か の のぶひこ 高野 信彦 67歳 山中温泉ぬくもり診療所 管理者	平成12年に国立山中病院小児科医長として、過疎地域である山中町に赴任してから、同病院が山中温泉医療センター(山中町立、その後市町村合併により加賀市立)、山中温泉ぬくもり診療所(加賀市立)へと移行する中、一貫して同地において、地区で唯一の小児科医として、過疎地域における小児医療の提供に貢献している。また、山中温泉ぬくもり診療所の開設から同診療所の副管理者、令和4年10月からは管理者の職責を担っている。
6	長野県	か さ い ひで 河西 秀 62歳 長野県立木曽病院 健康管理部長	平成22年4月に木曽病院に赴任して以来、患者に寄り添う医療を実践するとともに、介護現場にも深く関わっている。また、予防医療だけでなく訪問医療にも深く携わり、木曽地域の住民の生命を守ってきた。特に、無医地区へのへき地巡回診療及び来院することが難しい患者の訪問診療にも対応し、令和5年9月からオンライン診療を導入するなど、新たな医療の形にも積極的に取り組んでいる。さらに、木曽医療圏内の常勤医が不在の診療所の嘱託医やグループホーム嘱託医を担うなど、様々な方向から地域に貢献している。

(資料)

No	都道府県	氏名・年齢・現職	功績等
7	愛知県	<p>や ま だ とも ゆ き 山 田 智 之 62歳 岡崎市額田宮崎診療所 所長</p>	<p>平成18年7月より赴任し、翌年4月より現任となった後、18年超にわたり、へき地診療所である岡崎市額田宮崎診療所にて所長職を担っている。内科を中心とした総合的な診療を地域住民へ提供し、へき地に住む患者の事情に寄り添うなど、状況に応じた適切な医療、介護へと導けるような診察が慕われている。地域の高齢化が著しく、通院できない患者にも対応できるよう近隣に住み込みで患者の訪問診療や看取りのニーズにも応えている。</p> <p>さらには、地域内にある障がい者施設の嘱託医を務め、へき地において幅広く地域貢献している。</p>
8	京都府	<p>う ら の しゅんいち 浦 野 俊 一 59歳 京丹後市立久美浜病院 副院長</p>	<p>平成12年4月、当地域で初めての常勤泌尿器科医として赴任して以来25年にわたり、地域の泌尿器疾患患者の治療に尽力してきた。それまで遠方の病院でしか受けられなかった尿管ステント留置術や膀胱悪性腫瘍手術など数多くの手術を実施し、多くの患者の治療に貢献してきた。</p> <p>また、医療資源に限られる京都北部地域において、当直や救急医療にも積極的に対応し、小児疾患から内科・外科系疾患、さらには訪問診療に至るまで幅広く担い、「専門性と守備範囲の広さを兼ね備えた総合医」として地域住民から高い信頼を得てきた。</p> <p>院内においては、平成16年に泌尿器科部長、平成23年からは診療部長として医局全体を統括し、診療体制の維持・発展に尽力。さらに看護師や医療技術職への指導的役割を果たすとともに、平成26年4月に開設した「医療安全管理室」の管理者として、医療の質と安全意識の向上に大きく貢献した。</p> <p>令和5年4月からは副院長として病院経営にも携わり、病院長を補佐しつつ「安心で信頼される病院づくり」を目指して日々奮闘している。</p>
9	兵庫県	<p>さ た け しんすけ 佐 竹 信 祐 68歳 公立宍粟総合病院 院長</p>	<p>平成16年9月より現在に至るまで約20年間、宍粟市で唯一の病院である公立宍粟総合病院において外科医として勤務し、外来・入院診療に加え、来院が困難な高齢者への在宅診療を行うなど、地域住民の健康保持や公衆衛生活動に大きく貢献してきた。</p> <p>その後は、外科部長、診療部長、地域連携室長、副院長を歴任し、平成30年に院長に就任。千種診療所や波賀診療所など、へき地診療所での応援診療にも携わり、医療資源の限られた過疎・山村地域において、継続的に診療体制を維持し、住民が安心して医療を受けられる環境の確保に尽力してきた。</p> <p>公立宍粟総合病院は、佐竹院長の方針のもと、地域に不可欠な救急医療や小児・周産期医療にも積極的に取り組んでいる。救急医療では365日24時間体制で救急外来患者を受け入れ、その応需率は常に87%以上という高い水準を維持している。また小児科においても、通常診療に加えて休日午前の応急診療を実施し、地域の小児医療を支えることで、へき地医療拠点病院としての役割を果たしている。</p> <p>現在も、佐竹院長自ら、在宅診療や救急外来や当直業務に従事し、医療現場の最前線で地域医療を支える姿勢を貫いている。</p>
10	兵庫県	<p>こ や ま つかさ 小 山 司 67歳 公立八鹿病院 顧問 兼 放射線科部長</p>	<p>公立八鹿病院は、兵庫県でも北部の山間部に立地し、へき地医療拠点病院として但馬地域の医療を担っている。平成3年10月に放射線科部長として赴任してからは、画像診断・放射線治療の強化に取り組み、但馬地域の医療水準の向上に多大な貢献をしている。同院での勤務実績は34年間で、平成23年から副院長として、また令和7年から病院顧問として地域の医療を守り続けている。大型画像診断装置や放射線治療機器が不足する但馬地域において、開業医からの画像診断・放射線治療の紹介患者を一手に引き受けている。検診業務も積極的に実施しており、住民の健康維持、疾病の早期発見に多大な貢献をしている。</p>
11	奈良県	<p>あ か し ようすけ 明 石 陽 介 49歳 南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター へき地医療支援センター長</p>	<p>平成13年3月に自治医科大学を卒業後、義務年限内医師として平成15年7月からの2箇年及び平成19年4月からの3箇年の計5年をへき地診療所所長として勤務し、山間へき地診療所において常に患者に寄り添った医療に努め研鑽を積んだ。</p> <p>県立五條病院へ入職後、病院勤務と並行して代診業務などのへき地支援業務に引き続き従事した。</p> <p>奈良県南和地区の医療再編に伴い、南和広域医療企業団が発足すると、企業団が運営する病院群の中心的役割を担うべく新たに創設された南奈良総合医療センターの総合内科部長に就任。平成31年には同センターのへき地医療支援センター長に就任。平成31年にへき地医療 支援機構専任担当官に任され、以後は 医師配置や代診医派遣調整などの業務を担いつつ、自らも陣頭に立つてへき地診療所において診療も行っている。</p>
12	鳥取県	<p>こ だ に やすひろ 小 谷 泰 広 61歳 岩美町国民健康保険岩美病院 副院長</p>	<p>住民に密着した中小病院で地域医療に従事したいとの強い思いから、平成15年6月、鳥取県最東北端に位置する岩美町立岩美病院に着任した。以降、地域包括ケアの実践と地域医療の総合的な取り組みを推進する中で、整形外科部門唯一の医師として尽力してきた。</p> <p>令和2年4月に副院長に就任してからも、整形外科外来や病棟管理を一人で担い続け、住民が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、運動機能の維持や在宅支援の視点から地域包括ケアシステムの推進に力を注いでいる。</p> <p>人口減少や高齢化、医師不足といった厳しい環境下にあっても、温厚で実直な人柄と、患者・家族に寄り添う丁寧な診療によって厚い信頼を得ており、院内スタッフのみならず地域住民からも広く慕われている。長年にわたり、へき地における地域医療の確保と地域包括ケアの推進に継続して尽力してきた。</p>

No	都道府県	氏名・年齢・現職	功績等
13	島根県	かとう いちろう 加藤 一朗 52歳 隠岐広域連合立隠岐病院 副院長	自治医科大学を卒業後、隠岐病院と都万村診療所において、離島へき地医療に4年間従事した。その後産婦人科研修を経て、平成19年4月から隠岐病院において、産婦人科に勤務し、離島の分娩を守ってきた。また、産婦人科だけでなく、五箇診療所、都万診療所、巡回診療等、隠岐の島のへき地医療に永年にわたり従事してきた。
14	広島県	ゆうき つねつぐ 結城 常 譜 59歳 安芸太田病院 院長	平成14年に安芸太田病院(旧・加計町国民健康保険病院)に赴任して以来、地域唯一の病院に勤務する医師として、入院管理、外科手術、麻酔、一般外来、救急外来、在宅訪問診療と幅広い診療を担ってきた。また、へき地医療拠点病院として近隣の吉和診療所の外来診療支援も行い、地域医療の充実に尽力している。 さらに、高齢化の進む地域においては介護施設医療にも積極的にに関わり、令和元年からは特別養護老人ホームや認知症グループホームの嘱託医として高齢者医療の向上に寄与している。 また、次世代医療人材の育成にも熱心に取り組んでおり、平成16年から臨床研修指導医として研修医の指導を行い、平成22年からは広島大学医学部の地域医療実習を担当。平成30年以降は総合診療専門研修の指導に加え、令和4年からは救急救命士や消防士を対象とした病院実習も担っている。 地域包括医療・ケア認定医、地域総合診療専門研修指導医として、長年にわたり地域医療の発展と人材育成の両面で大きな貢献を果たしている。
15	広島県	きじま や す む 来嶋 也 寸 無 52歳 公立世羅中央病院 院長	平成21年4月に赴任し、以降16年超にわたり地域住民の医療需要に応えるべく、365日24時間体制での救急医療の充実に尽力してきた。 さらに、平成30年4月からは神石高原町立病院において、第1・第3金曜日に診療応援を行い、同院のみならず近隣地域においても医療提供に貢献してきた。 加えて、令和6年9月からは三原市大和町の無医地区(篠・蔵宗・上草井・下草井)において、第1・第3水曜日に巡回診療を実施し、へき地医療拠点病院としての役割を果たしながら、地域医療の充実に取り組んでいる。
16	広島県	かたおか まさあき 片岡 雅 明 59歳 公立世羅中央病院 副院長	平成16年4月に赴任し、現在に至るまで、地域住民の医療需要に応えるべく、365日24時間体制での救急医療充実に向け尽力し、また、高齢化が進む本地域において、根気強く往診をしているなど、地域医療に対して大きく貢献してきた。 令和6年9月からは三原市大和町の無医地区である篠・蔵宗・上草井・下草井に月に1回程度に巡回診療に行き、へき地医療拠点病院としての医療提供の充実に取り組んでいる。
17	広島県	はらだ わ か こ 原 田 和 歌 子 50歳 広島県北西部地域医療連携センター センター長	平成14年から広島県中山間地域(安芸高田市・安芸太田町)の地域医療に従事してきた。その後、平成24年からは同地域のへき地医療拠点病院に勤務し、平成26年からは中山間地域を含めた広島県北西部地域において、救急車や緊急の紹介を断らない救急・緊急入院診療体制を構築。中山間地域のへき地医療機関に勤務する医師を支え、ひいては住民の生活の安心にもつながる仕組みづくりに尽力してきた。 また、令和元年からは広島県北西部地域医療連携センターとして、上記地域の救急医療のバックアップに加え、過疎地域の診療所支援として北広島町豊平診療所の外来診療を担うほか、安芸太田町の安芸太田病院、北広島町の大朝ふるさと病院、安芸高田市の津田医院など医師不足地域への診療支援をチームで行い、住民の安心感の確保に努めている。 さらに、将来地域で活躍する若手総合医の育成や、へき地の医療機関に勤務する医師の孤立防止を目的に、平成28年から安芸太田町・安芸高田市などを結び、若手医師と地域の医師を対象に週2回のオンライン勉強会を継続。地域医療の質の向上と次世代総合医の育成・支援に力を注いでいる。
18	徳島県	かんざ わ けん 神 澤 賢 66歳 海陽町国民健康保険海南病院 院長	平成5年9月に海南町(現・海陽町)へ移住し、海陽町国民健康保険海南病院に整形外科医として着任して以来、約32年間にわたり地域医療に従事してきた。令和2年からは院長として、地域住民と共に医療の充実に取り組んでいる。 また、将来発生が予想される南海トラフ地震を見据え、平成28年より日本DMAT隊員として活動し、防災対策にも力を注いでいる。

(資料)

No	都道府県	氏名・年齢・現職	功績等
19	徳島県	おきつ 沖津 68歳 おさむ 修 つるぎ町立半田病院 顧問	昭和63年に産婦人科医として半田病院に着任以来、長年にわたり地域の周産期医療に尽力し、とりわけ過疎地域とされる徳島県西部において、安心して出産できる環境づくりに力を注いできた。病院運営や地域との連携にも手腕を発揮し、住民から厚い信頼を得るとともに、後進の育成にも尽力している。 平成30年10月には徳島県で開催された「第58回全国国保地域医療学会」を主宰し、学会長として「地域包括ケアで日本の未来を切りひらこう」をテーマに全国から参加者を迎え、地域医療の実践と課題解決に向けた議論を成功裡に導いた。
20	香川県	にしかど 西角 67歳 あきよし 彰 良 香川県立白鳥病院 院長	平成17年に香川県立白鳥病院に赴任して以来、20年余りにわたり内科部長、副院長、院長として一貫して同院に尽力し、良質な医療の提供と住民から信頼される病院運営に努め、地域医療の充実・発展に大きく貢献してきた。地域中核病院として幅広い疾病に対応するとともに、専門性の強化にも注力し、特に生活習慣病や高齢化に伴って増加する高血圧、心筋梗塞、不整脈など循環器疾患の診療に積極的に取り組み、経皮的冠動脈形成術やカテーテルアブレーションなど先進的治療を導入した。その結果、一地域の病院でありながら、中四国地方における循環器専門病院として高い評価を得るまでに至っている。 また、無医地区である東かがわ市五名地区において、自らも巡回診療に出向きながら継続実施している。加えて、訪問診療や訪問看護、訪問リハビリにも力を注ぎ、通院が困難な患者のニーズに応えている。さらに、高齢化の進展を踏まえ、地域包括ケア病床の設置を率先して進め、行政や関係機関と連携しつつ、地域包括ケアシステムの一翼を担ってきた。
21	愛媛県	かねこ 金子 61歳 まさひこ 政彦 市立宇和島病院 副院長	平成10年に市立宇和島病院に着任して以来、愛媛県南予地方のみならず高知県西南部で唯一の血液内科を支え、長年にわたり地域の診療レベル向上に尽力してきた。特に、圏域における血液悪性疾患の診療に注力し、造血器腫瘍に対する最新の化学療法はもちろん、造血幹細胞移植をはじめとする先進医療など、大学病院で実施される多くの治療を提供可能な体制を整えた。 令和3年4月からは市立宇和島病院副院長に就任し、宇和島圏域感染症対策連携協議会の主要メンバーとして地域連携カンファレンスの実施や南予地域の他施設との情報共有を定期的に行うなど、地域の感染症対策に献身的に取り組んでいる。現在も多くの患者の治療に携わり続け、地域医療に多大な貢献を果たしている。
22	愛媛県	おおつか 大塚 56歳 のぶゆき 伸之 西予市立野村診療所 所長	平成15年から平成17年まで西予市国民健康保険土居診療所杉ノ瀬出張診療所で常勤医として地域住民の健康を支え、平成17年より西予市立野村診療所に勤務。以後20年間にわたり診療に従事し、平成21年から15年間は副院長、昨年からは院長として地域医療を担っている。さらに、平成30年度から令和3年度までの4年間は併設の西予市野村介護老人保健施設つくし苑の施設長を兼務し、地域内特別養護老人ホームの嘱託医も務めるなど、高齢者医療にも尽力してきた。 令和6年には西予市国民健康保険土居診療所の診療支援を行い、令和7年4月からは巡回診療車での診療にも従事している。また、平成21年に愛媛大学医学部地域医療学講座の地域サテライトセンターが野村診療所に設置されて以来、毎年約80名の医学生を受け入れ、看護学生の在宅支援実習や初期臨床研修医の指導など人材育成にも注力してきた。 令和7年4月からは西予市民病院の内科医師として診療を行いつつ、週3日は野村診療所長として診療を続けており、西予市全体の医療に大きく貢献している。
23	大分県	こが 古賀 51歳 せいぎ 正義 国東市民病院 在宅ケア部長	平成16年8月に東国東広域国保総合病院の内科医師として着任以来、20年以上にわたり地域医療に尽力してきた。平成24年4月には健診部門長に就任し、人間ドックを通じて住民の健康保持に貢献し、予防医療の要として重要な役割を果たしてきた。さらに、医師不足が深刻化する中、平成31年4月より在宅ケア部長を兼務し、過疎化の進む地域においても住み慣れた自宅で安心して医療を受けられる環境を整備。休日・夜間を問わず訪問診療に尽力し、在宅医療体制の充実に大きく寄与している。 また救急医療にも精通し、その経験を活かして平成20年3月には日本DMAT隊員となり、地域の災害医療の第一人者として活動している。令和4年6月には統括DMATにも登録され、人材育成や多職種の連携強化にも取り組んでいる。その専門知識と的確な指導は、広く災害医療体制の向上に結び付いている。 永年にわたり地域医療を多方面から支えてきた姿勢は、住民から厚い信頼を得ており、その期待に応えるべく、安心・安全な医療の実現に今なお尽力している。
24	大分県	はんだ 半田 49歳 ようすけ 陽祐 杵築市立山香病院 小児科部長	平成21年4月に国東市民病院へ入職後、平成26年1月より杵築市立山香病院の小児科部長に就任し、以降今日まで地域小児医療の充実に尽力してきた。杵築市の小児科医療を担う機関はわずか3施設であり、入院機能を有するのは山香病院のみである。そのため、長らく一人診療科体制のもと、外来診療から入院管理まで献身的に対応してきた。 また、平成24年には病児保育を開始し、診察後の利用許可や経過観察を行うなど、安心して利用できる環境整備に取り組んだ。さらに、平成27年からは小児科対応が手薄となる週末に日曜診療を導入し、子育て世帯が困らないよう体制を整えてきた。 多忙な日常業務の傍ら、乳幼児健診や予防接種にも積極的に関わり、医師の偏在が課題となる地域において、子どもとその家族を支える小児科医療の確保に大きく貢献している。

(資料)

No	都道府県	氏名・年齢・現職	功績等
25	宮崎県	<p>よしもち げんしん 吉 持 巖 信</p> <p>61歳 椎葉村国民健康保険病院 院長</p>	<p>ネパールのダンデルデュラ病院で外科医及び病院長を務めた経験を活かし、平成14年9月以来、椎葉村国民健康保険病院の副院長を経て平成15年6月から長きにわたり院長として医療業務に従事している。</p> <p>椎葉村国民健康保険病院は、医師3名を含む職員数50名の小規模病院であるが、院長自ら「椎葉村民にとって、世界一のかかりつけ病院」になることを目指している。</p> <p>その中で、椎葉村内のへき地ならではの課題である高齢者が高次医療機関を受診しづらいことを考慮し、片道一時間ほどかかる地域への定期的な巡回診療や訪問診療を行い、また、椎葉村唯一の高齢者福祉施設「平寿園」との連携した回診を実施し、さらには、非常備消防である椎葉村との救急体制の確立や勉強会を開催し連携を図るなどへき地医療の発展に寄与する活動を行ってきた。</p>
26	宮崎県	<p>まつだ しゅんたろう 松 田 俊 太 郎</p> <p>53歳 県立延岡病院 総合診療科 主任部長</p>	<p>令和5年4月1日に県立延岡病院総合診療科主任部長として赴任。令和6年2月1日から同院がへき地医療拠点病院となったことに伴い、美郷町国民健康保険病院・延岡市立島浦診療所・高千穂町立国民健康保険病院への診療応援及び医師への指導等を行い、へき地医療の発展へ多大なる貢献をしている。</p> <p>また、現在県立延岡病院が基幹施設となり、専攻医指導体制ALLMIYAZAKIプログラム運営をしており、大病院での病院総合医(ホスピタリスト)と中小病院での家庭医療(家庭医)という総合診療の2軸をしっかりと学ぶことができる環境を提供している。これにより、在宅医療や地域の診療所・クリニック、救急・病棟管理のある総合病院でも対応できる人材の養成を行っている。現在に至るまでに200名以上の若手医師の育成に貢献している。</p>